

## 巻頭言

本誌の巻頭言を依頼されたので、やはり過去のものがどうだったかが気になってしまい、調べてみたところ、「遊星人」は創刊号から現在にいたるまで全ての記事を読覧することができるのに改めて驚いた。私は宇宙研で20年程度「ISASニュース」という、月刊情報誌の編集委員に携わっており、ページ数は少ないものの「遊星人」にも劣らず読み応えのある内容だと思っている。2022年11月号でついに創刊500号を迎えたのだが、これもまた、創刊号から最新号まですべて読覧することができ、40年以上の宇宙研での宇宙開発の歴史をその時々ホットな出来事を感じることができる。

さて、月惑星科学の分野で一つ忘れて欲しくないイベントとして、1968年から毎年開催された「月・惑星シンポジウム」がある。今や月惑星関連学会の花形とも言える、LPSC(Lunar and Planetary Science Conference)より1年先駆けて発足されたこのシンポジウムは2017年の第50回の開催を節目にその役割を閉じた。このシンポジウムも第1回からプロシーディングを発行しており、第36回以降は一部インターネットで公開されているが圧巻なのは歴代の大御所とも呼ばれる先生方らが熱く研究成果を手書き原稿で語っておられる比較的初期のものだ。私はこれらを是非とも広く公開したいと思って図書に相談したのであるが、著作権の関係などでそう簡単なことではないらしい。宇宙研に来られる機会があれば図書に足を運んで是非とも手に取っていただきたい。

文献の検索や入手が驚くほど便利で容易になり、図書館に籠ることも他の大学から資料を取り寄せて何週間も待つこともかなり減ってきたのではないかと思う。その結果、手元にはとても読める量とは思えない論文がひしめいている。どのように情報を取ってくるかというよりもどのように情報をさばくかの技量が問われていることに改めて気づく。

田中 智(宇宙科学研究所)